



観光立国の現状と課題

現状

訪日観光客 過去最高の年間3500万人ペース

外国人の消費活動も過去最高の年間8兆円ペース

円安で訪日客が急増し、日本経済にも大きなプラス効果をもたらしている
かつては慢性的な赤字だった旅行収支も、大幅な黒字状態に転換した

課題

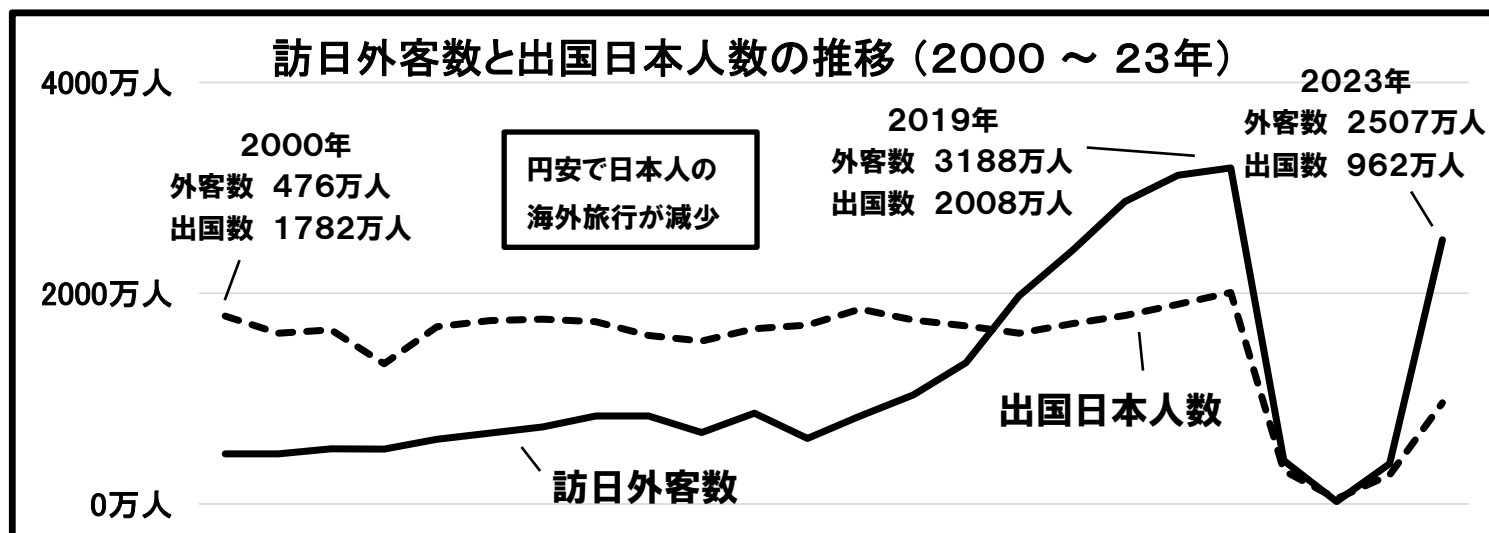
観光客の殺到により混雑やゴミ問題などが発生

都市部に人気集中し、地方への客足が鈍い

南関東や京阪地域などに客足が集中し、四国や山陰、東北などは集客に苦戦

2023年 国・地域別の訪日外国人旅行者数と割合（総計2507万人）

韓国	欧州・北米	台湾	東南アジア	中国	香港	その他
696万人 (27.8%)	425万人 (16.9%)	420万人 (16.8%)	363万人 (14.5%)	243万人 (9.7%)	211万人 (8.4%)	149万人 (5.9%)



※2019年時点で、世界で最も外国人観光客の多い国はフランス（9000万人以上）である。
日本は世界11位であり、中国（約6570万人）、タイ（約3980万人）に次いでアジア3位。

昨年10月、オーバーツーリズムの解決に向けた対策パッケージを策定。
特定観光地に人気が集中し、住民生活が脅かされている現状を是正し、
地方創生と持続可能な観光業振興を実現すべく、様々な施策を推進します。

オーバーツーリズム解決対策① 受け入れ環境の強化

- ① 空港の検査態勢の迅速化、連結バスの導入、鉄道車両の長編成化、配車アプリの充実など、観光地の輸送力を強化し、混雑を緩和する。
- ② マイカー規制によって公共交通機関の利用と歩行空間の拡大を進め、大規模鉄道駅で新しい改札口や通路を増設し、混雑を緩和する。
- ③ 自動圧縮機能によって大量のゴミを収容できるスマートゴミ箱の導入、荷物の自宅配送や一時預かりサービスなどで、ゴミ問題を改善する。

オーバーツーリズム解決対策② 需要の分散とマナー違反防止

- ① 富士山をはじめとする国立・国定公園で入山料・入域料を導入、施設整備やゴミ処理の財源とし、観光客の過剰な来訪を抑制する。
- ② 観光地の混雑状況や空いている観光ルートを表示するアプリの開発、早朝や夜間に文化財や美術館などを見学できるプログラムの導入、高速道路料金の平日割引の拡充など、観光客の分散を推進する。
- ③ 北海道の知床地域、北アルプスを中心とする中部山岳国立公園、出雲大社や鳥取県の大山、島々の景観が美しい瀬戸内海一帯など、地方の観光地振興を通じて、地方創生と観光需要の分散を進める。
- ④ 多言語対応の看板やデジタル表示などによる観光マナーの喚起、防犯カメラの設置促進などを通じて、観光客のマナー違反を防止する。